

第11回日本健康運動看護学会学術集会 閉会のご報告

第11回 日本健康運動看護学会学術集会

大会長 根本 清次
(東都大学幕張ヒューマンケア学部 教授)

副大会長 鶴田 来美
(宮崎大学医学部看護学科 教授)

健康運動看護学会の新たな試みであるweb開催にご参加、ご視聴くださりありがとうございました。不慣れな事もあり、スタッフ一同も手探りの状況での開催となりました。会員の皆様にはアクセスの困難、見えにくい、聞き取りにくい等、多々の問題があったと理解しておりますが、新規の試みとしてご容赦のほど、お願いいたします。

さて、コロナ禍は文字通り私たちに大変な災いをも及ぼしている訳ですが、反面、新たな気付きを与えています。人と人の直接の接触が制限される今、ICTを用いた連携が、これほどクローズアップされた事はなく、ご近所とも、何千キロも離れた相手とも、コミュニケーションの力で同じように理解しあえる事を実感いたしました。現実の体験こそは貴重なものですが、それとは別の、共感性の新たな深みに向かっているのではないのでしょうか。

私たちは、コロナ禍においても健康活動や運動の重要性を訴え、それらをサポートする看護職として歩みを止める事はありません。学術集会という、ひと時の共有を終えますが、学会の更なる発展を信じながら閉会といたします。ありがとうございました。

記

1. 会 期：令和2年12月1日(火)12時～12月8日(火) (オンデマンド配信)
2. テーマ：運動と看護の協調がもたらす未来 — with コロナ / after コロナ —
3. 大会長講演
 テーマ：ヒューマンケアの概念と他分野連携
 根本 清次(東都大学幕張ヒューマンケア学部 教授)
4. 特別講演
 - (1) テーマ：新型コロナウイルス感染症を考慮した糖尿病患者に対する運動療法
 — 我々、運動指導者がすべきことを考える —
 河江 敏広(東都大学幕張ヒューマンケア学部 講師)
 - (2) テーマ：未来ある子どもたちの運動とスポーツ支援を考える
 吉永 砂織(宮崎大学医学部看護学科 准教授)
5. パネルディスカッション
 - (1) テーマ：新型コロナウイルス感染症禍における効果的な運動対策
 中武 悌晴(青島太平洋マラソン事務局 長 レースディレクター)
 大月 直美(株式会社 THF 取締役)
 脇坂 大陽(一般財団法人スポーツアライアンス 代表理事)
 平野 康之(東都大学幕張ヒューマンケア学部 教授)
6. 一般演題(口演)
 - (1) テーマ：合図からの歩行開始に着目した転倒リスク評価についての報告
 香川 将大(東都大学幕張ヒューマンケア学部 助教)
7. 副大会長講演
 テーマ：看護の力で健康な社会を—看護師に必要な運動指導能力—
 鶴田 来美(宮崎大学医学部看護学科 教授)
8. 特別企画
 廣瀬俊朗さんから健康スポーツナースへの応援メッセージ
 (元ラグビー日本代表キャプテン、株式会社HiRAKU代表取締役)